

みずくらいど

校長 加藤雅弘

裏方の仕事も、周囲の状況を自分で考えて

「自分のことだけでなく、周囲の人の様子を見て、みんなが幸せになる行動をとる」これが、鋸南自然教室でとてもよくできていたということを前号でお知らせしました。そして、その姿はその後も継続的に見られています。例えば、昨日の5年2組の音楽発表会練習です。自分たちの練習をするためには、まず楽器のセッティングから始めなければなりません。楽器を壁際から中央に出す際には大きな山台（ひな段）をどける必要もあります。大掛かりな舞台展開しながらです。一人一人が自分の楽器を動かしている間にもヘルプの声が掛かります。一人の児童がコードリールを運び終わった時に、鉄琴を舞台へ上げようとしている女子から呼びかけがありました。すると、その児童は嫌な顔一つせず手伝いに向かい、何事もなかったかのように自分の作業に戻りました。周囲の状況を見て、行動できている姿に感心してしまいました。他の児童も協力しながら、多くの楽器を静かに移動していました。音楽の練習後、私が話す機会がありましたので、私の大好きな楽曲、カノンの話の前に、この素晴らしさを伝えました。そして、ここで私が学んだことを我が家で活用することも。この歳になって5年生に人生を教授してもらえとはなんと幸せなことでしょう。

次の時間は2年1組でしたが、ここでも同様の姿が見られました。鉄琴の準備をしていた児童がもぐり込んでしきりにペダルを触ったりしています。そして、隣やそのまた隣の鉄琴もです。後で何をしていたか聞いてみると、引っかかって不具合が起きることがあるので、それを直したり調整したりしていたとのことでした。自分のものだけでなく、同じ楽器の友達のまで見てあげる姿、それを自分で考えて実行しているのは上記の5年生に重なります。

今回の音楽発表会は感染が拡大しても開催できるようにクラス単位の発表としましたが、図らずも、そのことが自分たちで準備しなくてはならない環境を生み、その結果、舞台の裏方を体験することにつながりました。ボディパーカッションや打楽器中心の音楽もかなり斬新で、またクリエイティブな要素も満載で聴き応えがあります。各学年の見所聴き所は当日配布の案内でお確かめください。そのことに加えて、裏方体験も、子供たちに計り知れない財産をもたらすと感じました。華やかな表があれば、それを支える裏方が必ずいるはずという、世の中の仕組みを実感できたのではないかと思います。明日は、直接お見せできないかもしれませんが、是非、その姿も想像いただきたいと存じます。

実はこの他にも昨日は感心したことがありました。1年1組の児童が、学年全体の靴をそろえていたのです。理由を聞いてみると「2年生がやっていたから」との答えでした。ズーム朝会やこの「みずくらいど」で紹介したことが起因のようです。1年生から見たら大人と同じぐらい立派な6年生がやっていることは真似しようと思えなくても、1つ先輩の2年生の行動なら真似できると感じたのではないのでしょうか。この行動も、自分だけが得をする行動ではなく、みんなのための行動です。前号の結びに「さらに広く浸透してほしいと願っています」記しましたが、低学年にも、自分で考え行動する「主体的に取り組む態度」が育っていること、心から嬉しく思います。